

自治協ニュース

第2904号
発行者
八本松住民
自治協議会
H29. 8. 20

地域トピックス 各地で サマーイベント 競演

八本松中央 夏祭り | サマーフェスティバル | 宗吉 サマーフェスタ | 刈又池 子ども自然体験学習



和太鼓の力強い響きで祭りは最高潮

また、この夏まつりは防災啓発も兼ねて企画され、廿日市から招いた防災士の中田健史さんが行う

所で活動するグループの発表、近隣の歌手やバンド等のパフォーマンス。パネルには地域の絵手紙や写真の展示。露店では地元野菜にかき氷やフランクフルト、金魚すくい等のお店が並ぶとともに平素から地域活動に理解ある団体や企業の支援も生かした運営で祭りを盛り上げた。

7月16日八本松中央自治会(会長土久岡章治)は八本松集会所で19回目となる夏祭りを行った。参加者は約200名

八本松中央 盛大に夏祭り 防災クイズに子どもたち真剣に回答

で、近年の新興住宅参入による世帯数の増加を反映し、子どもたちや若い方が多く大変賑やかで活気のあるものとなった。ステージでは集会所



防災クイズに挑戦する子ども達

ステージ終盤の和太鼓では子どもたちのかわいらしい演技に加え大人の方の力強い太鼓の音が響きわたり、会場の皆さんの拍手が続いていた。

「災害から自分の身を守るための防災クイズ」では子どもたちの真剣なまなざしを集めていた。クイズ終了後、中田さんは「いつもやる講演会では役員さん等特定の人しか集まらない。このようなイベントでやるのはいいアイデア。特に子どもたちが真剣に参加してくれ大変感心しました」と述べた。

「災害から自分の身を守るための防災クイズ」では子どもたちの真剣なまなざしを集めていた。クイズ終了後、中田さんは「いつもやる講演会では役員さん等特定の人しか集まらない。このようなイベントでやるのはいいアイデア。特に子どもたちが真剣に参加してくれ大変感心しました」と述べた。

8月5日、日興苑コミュニティ会館で「サマーフェスティバル2017」が約400名の地域の方たちが集まり行われた。会場には主催の日興苑自治会をはじめ子ども会や地区社



子どもフラダンス みんな手拍子

協等の構成員の皆さんが露店を出し笑顔で会場を盛り上げていた。フェスティバルはゆったりとしたハワイアンソングに乗ったフラダンスでスタート。特に子どもたち

の演技はかわいらしさと華やかさで会場を魅了。若いお父さん方のカメラフラッシュや拍手をあびていた。また、会場には浴衣姿の子どもたちも多く(約150名)高齡化が進むこの地域に、なにか新たな動きが感じられた。フェスティバルは恒例の盆踊りの後呼び物の福引抽選会で子どもにも人気の「ぬいぐるみ」がステージに積みれ当選者に配られていた。

この催しは、主催者の変遷はあるものの地域の皆さんによる手づくりの温かさのある取り組みで40年以上継続しており、主催した日興苑自治会の小池会長も「日興苑の行事で最大の参加数なので今後も継続したい」と語った。

日興苑 手作りの温かさで40年継続 やすらぎの南国フラダンスでスタート

の演技はかわいらしさと華やかさで会場を魅了。若いお父さん方のカメラフラッシュや拍手をあびていた。また、会場には浴衣姿の子どもたちも多く(約150名)高齡化が進むこの地域に、なにか新たな動きが感じられた。フェスティバルは恒例の盆踊りの後呼び物の福引抽選会で子どもにも人気の「ぬいぐるみ」がステージに積みれ当選者に配られていた。

宗吉地区 サマーフェスタ

子どもたちから高齢者の方まで元気な歌声

8月12日、宗吉で約320名の地域の方(うち子どもたち70名)を集め「サマーフェスタIN宗吉」(主催 宗吉夏祭り)



盆踊り 子どもたちも上手



カラオケ 舞台左から大声援 人気ありますねー

実行委員会 宮野清委員長)の夏祭りが行われた。

会場はトラックのウィングボディを利用した舞台や盆踊り用のやぐら、ゴザ席に子ども達の遊び場等が工夫され、参加者の皆さんは思い思いの場所で楽しんでおられた。

ステージは子どもたちの元気な歌声でスタートし地域の「のど自慢」たちのカラオケで大盛り上がり、歌に合わせ踊りながら出場者を応援するシーンも見られた。また、後半の「じゃんけん大会」では賞品を目指し全員がじゃんけんポンの大合唱。屋台も実行委員会や地区社協の手作りの食品などが笑顔で販売され祭りを盛り上げていた。この地域は最近高



約300名のじゃんけん 前方は子ども達

齢化が進み若者の減少が悩みの種。昭和54年以来続いているこの祭りも、夏祭りからサマーフェスタに改名し、内容も子どもたちや若者が参加しやすいように改善。会場には里帰りした子どもたちが屋台で買ってもらったおもちゃで遊ぶ姿があふれていた。

実行委員会事務局の佐々木さんは「一人でも多くの方に参加してもらえ『みんなの夏祭り』にしたい」と語った。

子ども 自然体験学習&そうめん流し大会

刈又池 健康づくりの森



セミのなく木陰で説明を聞く子どもたち

刈又池周辺森林整備研究会、下組東子ども会とおやじの会は7月16日、同研究会がボランティアで整備した「刈又池健康づくりの森」で子どもたちの自然体験学習を開催した。

初夏の蝉の鳴く森の木陰に約90名の地域の子どもたち(保護者と世話人を加えると160名)が集まり、低学年はこの日用いるそうめん流しの竹コップや箸づくりを、高学年はこの森に掛ける巣箱作りに挑戦。いずれも世話人さんが前もって加工した竹を紙やすりで研磨したり、巣箱のパーツをドライバーで組み立てたりするもの。

初めはおぼつかない手つきだったが世話人さんの優しい指導で道具の使い方も上達し10個の巣箱と90組のコップと箸を作り上げた。

その後下組集会所で流しそうめんや綿菓子、かき氷で昼食。特にそうめん流しでは4台の流し台に流れるそうめん獲得に大歓声。

森林整備研究会の中曾事務局長は、「初めての企画で大変苦労しましたが子どもたちに喜んで



キュウリやゼリーも流れ びっくり



巣箱できた



マイ竹コップできた

らいうれしい。地域の皆さんが住んでよかったと感じられるような地域づくりに励みます」と述べた。